

## 日台一源三流の強い絆

まつづらまさと  
松浦正人 ● 理事  
第29代全国市長会会長



去る七月三十日、天寿を全うされご逝去なされました李登輝さまの尊いご人徳と多大な功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

私は昭和十七年（一九四二年）に中華民國江西省九江市で生まれ、引揚船の中をかすかに記憶しております。政治との関わりは一九八〇年に当選した防府市議（一期）から始まり、山口県議（三期）を経て一九九八年より防府市長に就任、二〇一八年まで二十年（五期）務め、地方自治一筋に歩ませていただきました。

台湾と私の出逢いは、山口県議会自由民主党日華議連がスタートで、歳を重ねるごとに強くなり、人の輪も拡がり、李登輝さまが総統に就任された一九八八年頃からは年一回は必ず訪台するようになりました。

年々目覚ましい発展をとげてゆく台北の変貌

ぶりに驚くなか、十数回目の訪台となった一九九六年には台北・陽明山の交流協会代表公邸に後藤利雄代表を訪ね、親しく歓談の機会をいただきました。このときより私は、以前にも増して今こそ台湾に学ばなければ……と真剣に考えるようになりました。

防府市長に就任後は市政改革などの公務に忙殺され、台湾への訪問もままならない状況が十年も続いてしまいました。その間に、李登輝さまの教育改革、民主化推進、政治経済の大胆な改革等を新聞、書物を通して知れば知るほど、李登輝さまにお逢いしてご指導を仰ぎたいという願望を強く抱くようになりました。

私は愛読している月刊誌『致知』より李登輝さま秘書の小栗山雪枝さんをご紹介頂き、二〇一一年十二月三十日、念願叶い数名の友人や家

内とともに李登輝さまの事務所を訪問させていただく幸運に恵まれました。日本における地方自治体と国の関わり、正しい歴史認識に基づく学校教育の重要性等ご質問とご指導を親しく賜り、その後の「教育再生首長会議」設立の動機付けとなったことは忘れられない思い出です。

二回目は、李登輝さまよりご紹介いただいた台湾ライオンズクラブ重鎮の顔志發さま（国策顧問）とご一緒に二〇一三年二月二十二日にお目にかかりました。四時間にもわたって十六名の防府ライオンズクラブの一人ひとりに丁寧に対応して下さり、一同深い感銘に浸りました。

三回目は二〇一六年七月三十日、李登輝さまが全国青年市長会の招聘で石垣島を訪問された時でございます。私が全国市長会のリーダーをしていた時で、李登輝さまが強い期待を寄せられていた安倍晋三総理への伝言をお聴きし、全国青年市長会会長の吉田信解よしだしんげ・本庄市長、副会長の中山義隆・石垣市長ともども胸を打たれ、その感動が「日台交流基本法」制定を国に働きかける活動のスタート台となっています。

二〇二〇年七月三十日、李登輝さまご永眠。

この大事は、三ヵ月後の十月二十六日に石川県加賀市で開催の「第六回日台交流サミットin加賀」の主催者や親台市長として名高い宮元陸みやもとりく・加賀市長を揺り動かし、「日台の外交・安全保障政策推進のため『日台交流基本法』を早急に制定すること」という加賀宣言となって表れてまいりました。

また、意を同じくする全国市長会有志が立ち上がり、日台共栄のため地方から立ち上がろうとの動きも出てまいりました。

長々と書き綴りましたが、明治二十八年（一八九五年）以来の五十年間に先人が台湾で流された血と汗と涙が、今に生きる私どもに一流三流の強い絆をお示しいただいている以外の何物でもありません。私どもは過去に学び、李登輝さまの御心に少しでも沿えるよう一步一步、信念をもって行動してゆくことを肝に銘ずべきであらうと考えている次第であります。今日までの多くの先人に改めて深甚なる敬意を表し擲筆致します。